

(特非) ぎふ木と森の学校

茅場復元による生物多様性の推進及び 循環型農法の確立

イベントの 延べ参加者数	100人
茅場の刈払・ 除伐面積	1ha
活動の全体目標 に対する達成度	75%



茶摘みツアー

◆成果と工夫したポイント

●成果

2回の植物調査で、合わせて45科91種の植物が確認された。そのうち外来種は8種で全体の8.8%と、市街地と比べ1/3以下と低いことが分かった。ササユリやミツバツチグリなど希少植物の生育が特筆される。

●工夫

地域のNPOネットワークを通して活動を案内し、多くのボランティアが活動に参加してくれた。

課 題

岐阜県揖斐郡揖斐川町春日六合にある、放置されたままの茅場のササやカヤなどを刈払い、雑木を除伐することによって、ササユリやカタクリ等の希少植物を再生したい。

目 標

茅場を復元することによって、生物の多様性を豊かにすることのみならず、刈払ったカヤやササを茶畑に敷き、堆肥にすることで先人が取り組んだ循環型農法を復活させるとともに、多肥による土壤汚染を防ぎたい。

活動内容

揖斐川町春日の内外から50名の参加者を得て、「ぎふ・春日の茶栽培を考える ～茅場農法がもたらすもの～」と題するシンポジウムを開催し、当該活動の啓蒙を行った。また、岐阜県立森林文化アカデミーの協力を得て、施業前と後で茅場の植物調査を実施した。結果として、多くの県で絶滅危惧植物にされているササユリの生育が確認でき、また絶滅危惧Ⅰ類に指定されているチャマダラセセリの食草であるミツバツチグリの生育も確認された。

達成できなかったこと

茅場農法に対する地元茶生産者の参加が十分に得られていない。最大要因は、茶生産者の多くは高齢者であるため、体力勝負となるこの農法を敬遠する傾向が強い。

今後の展望

茅場を整備したことで美しい茶園を満喫できるポイントが増え、今後のグリーンツーリズム展開がしやすくなった。



茅場から見た茶園